

令和6年度 第1回窪田空穂記念館運営委員会 会議概要

- 1 日時 令和6年5月16日（木） 13時30分～15時
- 2 会場 窪田空穂記念館 会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員側
赤羽英明委員代理 安藤隆子芝沢小学校教頭、大澤秀夫委員（委員長）、大下一真委員、折井理智子委員、窪田武夫委員、三枝浩樹委員、窪田 潔委員、三ツ井夏月委員 8名
 - (2) 市側
博物館長 加藤孝、庶務担当係長 柳本真里、事業担当 會田美保
窪田空穂記念館分館長 栗田正和、神田智代美、齊藤 洋子
- 4 副委員長選出
副委員長 窪田 潔委員
- 5 令和5年度事業報告
 - (1) 視察団体について
視察団体の伊佐ホームズ（株）、群馬県大井田様とは、どのような団体か。来館の目的は。（副委員長）
→伊佐ホームズ（株）は建築関係者で、柳沢孝彦氏の設計による建物の視察が目的。
群馬県大井田様は短歌の愛好家の方々と、お見受けした。（分館長）
 - (2) 職員体制について
昨年、職員体制が変わり心配をしていたが、令和4年度以前と令和5年度を比較して、特記すべきこと、変わったこと、新しく行ったことはあるか。（委員長）
→工夫をして事業を増やしたという話ができればいいが、減らしている。百人一首教室は4回から3回、2回へと回数を減らしている。冬季文化講座「冬日ざし」も4回から1回へと回数を減らしている。その1回も和田公民館と共催で開催をした。冬場は職員の確保が難しく雪かきが大変で、雪が降っても一人勤務で一人で雪かきということがあり、開催回数を減らし、公民館備品の借用や会場づくりなど、共催で職員不足をカバーしていただいた。（分館長）
改めて事業報告を読み直すと、プログラム数が多様すごい。これだけのことをやっているかと、びっくりした。項目的には変わらないかと思っていたが、特記としては、冬場の回数を減らしたのがあるということ。それにしても、どれ一つ行うにしても折衝から、準備、工夫もあり、毎日が追われている感を受ける。逆に手が足りな

いことで、公民館と連携していくことになったのだから、工夫していけばいい。

(委員長)

→職員は意気を感じて頑張ってくれている。公民館との連携は今後も進めていきたい。(分館長)

副委員長がいるから大丈夫。(委員長)

→ともに頑張っていきたい。(副委員長)

(3) 芝沢小学校との交流

芝沢小学校との交流は3年生地域学習、1年生七夕短冊飾りとあるが、これはプログラム化されているのか。3年生72人ということは2クラス全員ということか。地域の小学校として、6年間の計画の中で、1年生、3年生が関われるようになっていくということか。(委員長)

→毎年の恒例となっており、1年生、3年生の学年全員が関わる。(委員代理)

それはありがたいことだが、プログラム化されていると、3年生の先生のモチベーションはどうか、工夫しようというよりも、やらされ感がないか。そのときに担任の先生たちは、空穂について勉強しないと引率できないと思うが。(委員長)

→地域探検の中の一つとして、やらされ感はないと思う。(委員代理)

多様な活動を行っていても、プログラム化されているとマンネリ、惰性となってしまうことがないかと心配。高綱中学校も来ているが、学校幹事だからか、幹事でなければ来ないのでは。(委員長)

→一昨年は高綱中学校の先生が見えてくれている。昨年は幹事として松本市全体の学校に声をかけ、研修会を計画、実施してくれた。(分館長)

芝沢小学校、高綱中学校は意識をして交流をしている。子どもの短歌も地元の応募は多い。地域の縁で一生懸命やっているが、日常の教育活動から、先生も子どもたちもより深まっていくとよい。和田公民館の図書室が窪田生家に設置されたというのは、新しい試みではないか。(委員長)

→図書室の出張コーナーを設置したというのは、新しい試み。(分館長)

前年度事業報告だが、以前と比較したときの増減、変化というのは大事なこと。生家入口には「空穂本棚」があるが、よく70人も来た。(委員長)

→中学生の「ちょこっとボランティア」という、色々な体験をしようとする活動の一環で、空穂記念館で、図書館をやりたいという生徒の希望があり、女子生徒数人が中心となり、主に小学生向けの本を設置し、小学生に来ていただいて、読書したり、中学生が勉強を教えたりした。(副委員長)

夏休み中か。これは5年度の特別プログラムで、このような計画が公民館とできればいい。(委員長)

→夏休み中に今年度も計画している。先ほど芝沢小学校の地域探検の話があったが、一昨日、和田公民館にも来ていただいた。何を話そうかと考え、ネットで調べると、小学3年生の探検活動は、地図の記号や、その場所で、どんな仕事をしているかなど

を勉強するということであり、私も話をして、勉強をさせていただいた。その場で、たまたま将棋をやっている、子どもたちは碁もやってみたいという話もあった。子どもたちはその場で、何をやっているかを知らない。図書室で漫画のワンピースを、借りたいという話もあった。先ずは、来ていただくことから次のステップに進む。マンネリ化にならないように、ある意味では小さなファンをつくることができればよいと考える。(副委員長)

(4) 子どもの参加

入館者数には小学生、中学生が入っている。その数を把握しているとする、15歳未満、年齢で入館者数2千人弱を類別すると、低年齢者が多くはないか。(委員長)
→小学生、中学生のイベントなどの参加者数は、全てカウントしているが、記念館全体では大人と子どもでは半々くらいか。(分館長)

市民活動の参加者は高齢者が多い。活動者の高齢化が進んでいる。入館者数2千人のうち子どもたちが数百人となると、公民館のように若い人、子どもたちにファンになってほしいというモチベーションを持って、市内15分館の中でも、空穂記念館は子どもたちが多くきている館としてアピールできるのではないか。子どもの短歌もあり、子どもを意識して活動していると、言えるのでは。(委員長)

→ 子ども短歌もあり、子どもを対象としたイベントは多い。(分館長)

統計的に見て収入が16万円くらいだが、少なくとも当たり前。やっていることは子どもたちを意識した実際的なプログラムとなっている。(委員長)

6 令和6年度事業計画

項目的には前年度の事業報告と変わらないので、限られた時間であり、出席された委員の立場から新年度の計画を豊かにするように、それぞれ考え、意見を出してほしい。(委員長)

(1) 小学校クラブ活動と職員研修

交流活動は例年通りだが、小学校のクラブ活動が動き出しており、「昔の遊び」もある。子ども教室の囲碁、将棋、百人一首の先生に小学校でもお世話になりたいと、個人的には思う。小学校にお茶のセットがいくつかある。昨日も学校で話題となったが、空穂生家でお茶をやりたいと思う。職員研修をしてみたい。(委員代理)

去年の「冬日ざし」で空穂は民俗学の視点を持ち、和田のくらしを記して大事にしていたが、「昔の遊び」は通じるものがある。(委員長)

(2) 空穂の顕彰、空穂を知ること

生家が地域の方に親しみをもって使われていることは理解できたが、空穂の顕彰、短歌の顕彰というところ。私も空穂会、空穂の末弟に連なるものとして、一番大事なことは、空穂がいかに「大事な人」なのかを、地域の人に知ってもらうこと。そこはどうなのかと感じる。

実際に短歌教室を開き、私も三枝委員も講師として年に一度伺っているが、大事な

ことだと思う。もう一つ「子どもの短歌」が大事。選者からも聞いているが、随分と数が集まっている。冊子を見てもわかる。表彰式は受賞した子どもの学校で行っているが、例えば、表彰する時に選者若しくはそれに値するような人に、短歌とはどういうものか、このように作ると面白いとか、選評はあるが、実際に褒める、批評するなど直に生の言葉で短歌の面白さ、空穂の良さを伝える機会を考えてほしい。選者の中根誠先生、小塩卓哉先生は茨城、名古屋で高校の校長をやり、国語の専門家だった人で、そういう人は話ができる。

東京では記念館30周年記念の空穂会を開催し、いい内容で、百人程度集まっていた。松本の人たちにも来ていただけたらと思う。空穂は偉大な人ということを理解していただきたい。(委員)

前上條運営委員長も空穂を知っていただくことは一本の柱と言っていた。空穂の魅力を生で話すことについては、分館長にはためらいもあるのでは。(委員長)

→どのように具体化、実現するか、いろいろ考えてもしまおうが。(分館長)

子どもの短歌は、今までのように文章だけでなく、大人に、しかもプロに受け止めてもらえるという実感があるとよい。(委員長)

(3) 茶会

大人でも評価が直に聞けることはよいこと。安藤教頭の話があったが、裏千家でも学校で茶道を行っている。空穂生家でも、学校でも、お申し出をいただければ指導者はいる。年間何日か行っている学校、幼稚園もあり、希望があればお申し出を。来年は長野県淡交会の70周年イベントがあるが、茶会は定期的に行いたい。参加しやすくするには定期的に行っていないと。(委員)

(4) 百人一首教室

地域の子どもの百人一首に興味を持った時に、近くにこういった空穂生家、記念館があるのは財産だと思う。教室中に換気で襖を開けると、子どもたちは外の景色に歓声を上げている。参加者は少ないが、興味がある子どもたちが生家で出来るというのは地域の財産。回数は減ったとしても、今後も続けてほしい。百人一首教室の際に学生が記念館の展示見学をさせていただき、興味を持つ学生が多い。空穂や短歌を知らなくても興味を持ち、後に自分で来たりしている。学生や若い年齢層が知るきっかけと、気楽に来られる方法、アクセスが悪いのでバス利用や、またそれを知る方法があればいいと思う。収蔵資料公開で、本館の企画展に資料提供をするが、来館者をこちらの記念館に繋げてもらえれば一つのきっかけとなるのではないか。(委員)

(5) 空穂の顕彰、「空穂と源氏物語—古典文学の世界」

一番お願いしたいところは、大下委員もお話した空穂の顕彰という記念館の核になる活動をどういう形で肉付けしていくか考えてほしい。今年の事業計画の収蔵資料公開「空穂と源氏物語—古典文学の世界」があるが、これは記念館をPRする大きなチャンスでタイムリーな企画だ。NHKの大河ドラマ「光る君へ」で紫式部を採り上げているが、源氏物語とリンクをしている。非常に多くの人に関心を持っている。朝ドラ「花子とアン」で、山梨県立文学館での「村岡花子展」には、これまでにない来館

者があり記録だったと思う。空穂と源氏物語の企画、資料をどのような形で公開するか非常に大事だと思う。できれば、空穂の関係者と源氏物語、双方に詳しい関係者がいると思うが、協力を仰ぎ、一見の価値があると周知をしていただけるような公開展にしてほしい。

空穂は源氏物語の口語訳を2回、一般の人にも読みやすい概略版も出している。空穂の古典評釈は非常に優れており、歌人の評釈として高く評価されている。空穂の再評価の光を与える企画である。与謝野晶子の源氏物語は有名だが、意識しすぎていて、原作からかけ離れすぎているという批判もある。空穂と谷崎潤一郎、円地文子、林望、瀬戸内寂聴や新しい作家の現代語訳と比較出来るといった展示ができれば面白い。この企画展を是非、生かしていただいて、多くの人に記念館に足を運んでいただきたい。（委員）

宿題が大変になるが、学芸員もいるのでよろしくお願いします。（委員長）

(6) 誘導看板、植栽管理

松本波田道路のインター出口が近くにできるが、記念館に向かう大型バスが分かりやすい誘導看板を設置してほしい。記念館、博物館と建設課で連携を取ってほしい。生家にあったシャクナゲが枯れて伐採したが、代わりの花を植えてほしい。（委員）

植栽については、高野槇が傾き、ケヤキも随分高くなって危なく思う。安全上の問題として、市としての管理、手入れは必要であるので、対処を。（委員長）

(7) 分館長から

これまで記念館では館の活性化に向けて、様々な工夫をしながら実践してきた。空穂の顕彰について、かつては専任学芸員がいて、調査研究を進めていた時代があったが、専任がなくなり、本館の担当学芸員とできる範囲で考えながら、加藤館長と相談しながら進めていきたい。庭園管理は市として、できることは進めていくが、市では新しい植栽はしない方針である。委員の要望はお聞きしたが、市としてできることできないことがある。（分館長）

(8) 館長から

樹木について、定型的整備は順番で、危険度、緊急度の高い樹木は至急調整し対応したい。「空穂と源氏物語—古典文学の世界」について、NHKの大河ドラマで全国的にも源氏物語に目が向いていることもあり、話題性のあるいい企画。広報は本館もバックアップしていく。本館の生物多様性、自然とのかかわり方の企画展に空穂の収蔵資料を展示することから、空穂記念館の存在を認識してもらうような仕掛け、誘導等を考えていきたい。昨年の運営委員会で本館の開設に併せて、空穂記念館を含めた一部無料化の話をした。庁内調整の結果、年度途中では予算にも影響があることから、現在、調整中ではあるが、年度当初となる令和7年4月に博物館全体の料金見直しを行いたい。記念館は利用促進から大人も無料とする方針で調整中。新道路の誘導看板については重要、必要と思う。どのような道路ができるか担当部局と情報を共有し、将来的に進めていきたい。（館長）

(9) 副委員長から

「空穂と源氏物語—古典文学の世界」はチャンスと思う。場合によってはNHKとのタイアップも考えてほしい。ここにあるタスクをミッション、ビジョン、パーパスという考え方に置き換えた時に、どういうところから活動があるのか。何のためにやるのか、ハード面、ソフト面を整理しながら共通の認識で活動したらどうか。（副委員長）

7 運営委員の改選について

現在の委員任期は令和7年4月30日まで。来年度は運営委員の改選期となる。職名委嘱の委員は4月1日の人事異動に伴う人選。学識経験者、歌壇関係者、教育委員会が必要と認める者は、その人となりへの委嘱。次期委員について、現在の委員に継続が可能か否か、確認をさせていただく。継続できない場合、所属する団体などで、次期委員として御推薦いただける方がおられれば、御推薦をお願いしたい。このような方針で、年明けころ確認通知を出す。（分館長）